

研究・調査報告書

報告書番号	担当
290	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Association between alcohol consumption and cancers in the Chinese population--a systematic review and meta-analysis. 中国人における飲酒と癌の関連:システマティックレビューとメタ分析	
執筆者	
Li Y, Yang H, Cao J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
PLoS One. 2011;15;6(4):e18776.	
キーワード	
中国人、癌、システマティックレビュー	
要 旨	
目的: 飲酒は世界的に増加しており、また多くの癌と関連がある。本システマティックレビューとメタ分析は中国人における癌の発生に対する飲酒の影響を調査する。	
方法: Medline/PubMed、EMBASE、CNKI、およびVIPを用いて、有効な研究を特定した。癌に対する飲酒の影響を調査した中国人対象のコホート、症例対照研究が含まれた。研究の質はNewcastle-Ottawa Scaleを用いて評価された。分析データは独立して二人の査読者により抽出された。RevMan5.0を使用してオッズ比または相対リスクを収集し、不均一性テストはQテストおよびI-squareテストを用いP<0.01を統計学的に有意とした。	
結果: コホート研究の分析では、飲酒は胃癌、食道癌、肺癌と関連はなかった。症例対照研究を用いたメタ分析では、飲酒は以下5つの癌と有意な関連が見られた: オッズ比はそれぞれ、食道癌 1.79(99%CI 1.47-2.17)、胃癌 1.40(1.19-1.64)、肝細胞癌 1.56(1.16-2.09)、鼻咽頭癌 1.21(1.00-1.46)、および口腔癌 1.71(1.20-2.44)であった。症例対照研究の分析では、飲酒は女性の乳癌および胆嚢癌に対して保護的であった:オッズ比はそれぞれ0.76(0.60-0.97)、0.70(0.49-1.00)であった。飲酒と肺癌、結腸直腸癌、膀胱癌、ファーター乳頭癌、前立腺癌、または肝外胆管癌とは有意な関連を認めなかった。症例対照研究とコホート研究を結合して分析した場合、飲酒は食道癌の1.78倍、胃癌の1.40倍のリスク増加と関連があり、肺癌とは有意な関連を認めなかった。	
結論: 飲酒制限に焦点を当てた健康への取り組みが、中国でも癌発症抑制に重要である可能性がある。中国人と他の人種における飲酒と他の危険因子の交互作用を検討する更なる研究が必要である。	